

●女性のがん

がんは、日本人の死因の第1位で、平成23年の全死者数のうち28.5%を占めています。中でも女性特有の乳がんと子宮がんの発生率が高くなっています。



<乳がん>

乳がんの原因は、はっきりと分かっていませんが、乳がんの増加の背景には、女性のライフスタイルの変化や食生活の欧米化があげられています。

乳がんの兆候として代表的なのは、乳房に触れると分かるしこりです。また、乳房の皮膚の変化(くぼみやむくみ)、乳頭からの分泌物などがあります。

<子宮がん>

子宮がんには大きく分けて、子宮の出口にできる子宮頸がん、胎児を取める子宮体部にできる子宮体がんの2種類があります。子宮頸がんは若年層に多く、子宮体がんは年配のかたに多く見られる傾向にあります。

子宮がんの初期症状はほとんどありません。がんが進むと不正出血や、おりもの異常がでできます。

子宮頸がんの原因は、性交渉によるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染によるものです。多くの場合、一時的な感染で終わりますが、感染した状態が継続することで、がんを発症することがあります。

<予防と早期発見>

乳がんは自分で見つけることができる可能性が高いがんです。毎月、月経後1週間以内に自己触診を実行しましょう。また、2年に1度は検診を受けましょう。

子宮頸がんはHPVワクチン接種と検診で、子宮体がんは検診で予防と早期発見を心がけましょう。

■脳卒中について



川口市立医療センター

さとう しょうし
脳神経外科 医長 佐藤 祥史

元氣な知人が突然脳卒中で亡くなられた。このような出来事を幸いにも身近に経験されていなくても、一度は耳にしたことがあるかと思います。現在脳卒中は、がん、心疾患に次いで日本人の死亡原因の第3位であり決して他人事ではありません。脳卒中とは主に脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の3つの病気を指します。これら脳卒中の怖いところは幸いにも命が助かったとしても多くのかたに麻痺や言語障害などの重大な後遺症が残ってしまうことです。現在日本で寝たきりになられているかたの約4割は脳卒中が原因であるともいわれています。そのため脳卒中は普段からの予防が第一です。脳卒中を引き起こす病気としては高血圧、糖尿病、高脂血症といった生活習慣病が有名ですが不整脈や肥満、睡眠時無呼吸症候群なども危険因子にあげられます。お酒に関してはやはり多く飲む人は危険です。喫煙はもちろん本数が多いほど悪影響をおよぼし特に一日20本以上喫煙する人は要注意です。一般的な健康診断を受診すれば生活習慣病についての検査は行われます。しかし通常は脳の詳しい検査までは行いません。特にくも膜下出血の原因となる脳動脈瘤や小さな脳梗塞または脳腫瘍といったものは自覚症状がないものもあり脳ドックでしかわかりません。脳の病気についてご心配な場合は一度お近くの病院で行われている脳ドックを受診されてはいかがでしょうか。(当センターで受診希望の場合は総合健診センターまでお問い合わせください)

ひと

信じた道を進む

モノづくりは人づくり

菅野 敬一さん
(八幡木3)

ジュラルミン製の、全面に小さな丸い穴のあいたデザインが施されたかばん。ロンドンで2000年以上続く英国王室御用達の店を飾る唯一の日本製品だ。「自分の欲しいものを作っただけ」と60歳を超えた町工場の職人は子どものように笑う。

名刺の肩書は「職人」。精密板金加工会社の3代目。大手企業の部品を製造していたが、企業の方針転換により受注が激減、倒産の憂き目にあう。その危機を救ってくれたのが代々受け継がれてきた技術と父親が築いてきた人の絆だった。「親父に世話になったから」と仕事を回してくれた。従業員も団結してついてきてくれた。熱い人のつながりと長い年月かけて築き上げてきた技術が会社を再建させた。苦しく、もがいていた時ふと、「死ぬまでに自分の欲しいものを作りたい」と、職人の魂と技術をすべて注いでかばんを作った。口コミだけで世界に広がったのは製品は俺自身」というように、目には見えない作り手の思いがきちんと伝わったからだ。

「人づくりだよ」と、日本のモノづくりの将来を心配する。「質」より「量」を求め、魅力的なモノづくりができない日本の現状を、何とかしなければいけないと語る。ここまでこれたのは子どもころから、父や周りの職人の背中を見てきたことが大きい。若いころ、道はずれそうになると、周りから「お天道様が見ているから」と正された。

「先代たちがきちんとしてきたから」と会社が救われたときに正しいこと、悪いことの「軸」を持って生きることがいかに大切かを実感した。

「俺の背中を見て育つ子どもがいればうれしい」とほほ笑む姿に、未来を生き抜くために必要な大きな力を感じる。「周りがなんといおうが自分が正しい」と思ったことを信じて進むだけだよ」と日本を担う若者へエールを送る。(雅)



自動車の盗難被害が 防犯 急増中

平成24年中の自動車盗難被害は、市内で242件(前年比56件、30%増)、県内では1,993件(前年比227件、13%増)発生しました。

県内で被害の多い車両は、貨物自動車(46%)、乗用車(41%)となっています。ご自分の手で愛車の盗難被害を防ぎましょう。

※愛車を守る盗難対策

- 降りたら必ずドアロック
カギをつけたまま車から離れるのは、盗難対策以前の問題です。車から離れるときは、少しの間でも必ず窓を閉めてドアロックをしましょう。
- 盗難防止機器を使いましょう
パー式ハンドルロックやセンサー式警報装置、GPS追跡装置などの盗難防止機器を活用しましょう。
- イモビライザーの装着
カギから発信されるIDコードを車両本体内のコンピュータが照合し、一致しないとエンジンが始動しない仕組みのイモビライザーは、盗難防止効果も抜群です。新車を購入する際は、イモビライザーを装着しましょう。
- 設備が充実した駐車場を選びましょう
・自動車盗難の大半が駐車場で発生しています。
・自宅の駐車場には、照明や防犯カメラを設置しましょう。
・月ごめ駐車場などは、夜間でも明るく、防犯設備がある駐車場を選びましょう。
・外出時は、路上駐車を避けることも大切です。

防犯対策室 ☎048-242-6361